

第5章 目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて

- 1 市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携
- 2 北海道と共に発展する札幌市
- 3 SDGsの視点を踏まえたまちづくり
- 4 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン〈戦略編〉の策定

第5章 目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて

この章では、「目指すべき都市像」（第3章）の実現と「まちづくりの基本目標」（第4章）の達成に向けて、札幌市（行政）がまちづくりを進めるために必要な考え方を示します。

1 市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携

札幌市自治基本条例にも定められているとおり、まちづくりは市民が主役であることを基本としています。子どもから大人までのあらゆる世代の市民や企業、各種団体、行政など、まちづくりに関係する様々な主体が、第2次戦略ビジョンを共通の目標として広く共有し、それぞれの持つ力を発揮しながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

2 北海道と共に発展する札幌市

札幌市は、多くの人口を抱える大消費地であり、その社会経済活動は、道内各地域の生産者や、自然、資源、エネルギーなどに支えられています。一方で、札幌市は大都市ならではの機能を通じて各地域を支える役割を担っており、札幌市と北海道の発展は一体の関係にあります。

今後は更に連携を深め、地域循環共生圏の形成を進めるとともに、札幌市の持つ集客、消費、流通などの機能のみならず、大学や産業支援機関等による研究・商品開発の機能と道内各地域が持つ資源を結び付けるなどして、双方の発展を目指していく必要があります。

また、さっぽろ連携中枢都市圏のけん引役としても、関係自治体と共に考え、連携しながら国内外から活力を呼び込んでいきます。

3 SDGsの視点を踏まえたまちづくり

まちづくりを進めるに当たっても、SDGsの17のゴールのみならず、「誰一人取り残さない」という理念や「経済・社会・環境」の3側面の課題の統合的解決という視点を踏まえて取り組んでいく必要があります。

この統合的解決の視点を踏まえたまちづくりにおいては、例えば、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進める際に、歩行環境の改善や魅力的な空間の整備により、人の往来を増やし、まちににぎわいを創出するとともに、一人一人の健康増進や自家用車などによるエネルギー消費の抑制にもつなげるなど、複雑化する課題に対し、多角的な視点から様々な要素を統合的に捉えていくことが求められます。

4 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>の策定

今後は、より複雑化した課題が顕在化することも見込まれます。このため、より一層「分野横断的」に課題に立ち向かい、戦略的にまちづくりを進めていくことが重要となります。

そこで、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>では、「目指すべき都市像」を実現するため、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」を踏まえて、分野をまたがる課題・観点を整理し、分野横断的に取り組む「施策」と「まちづくりの基本目標」ごとに取り組む「施策」を定めます。

その上で、施策の着実な推進を支える観点である行財政運営の方向性についても併せて定めます。

また、施策の評価やその結果を踏まえた改善を適時行っていくため、指標の設定などの進捗管理の手法も戦略編で定めます。

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>の構成

